

歴史散策ガイドブック

歴史物語都市 こころふ

時空を超えて 今、まちが語り始める

甲府市

Kofu City Historical guide information & map

歴史物語都市 こうふ

歴史はひとつだけの出来事の集積ではなく、多面的で複雑に絡み合い今に至るまで続いています。甲府に多くの古墳が残るのはなぜか、ヤマトタケルノミコトが東征帰路の足を止めたのはなぜか？ 武田一族がやって来たのはなぜか、武田家臣群が江戸幕府の重職にあったのはなぜか？ その場所に立ち、その理由を知ると個別に見えていた点と点を繋ぐ糸が見え始めます。名所に囲まれた美しい自然と、昔の人々の息づかいを感じながら思わず手にとって歴史散策をしたくなる…時を超え思いを馳せ、ワクワクしながらご覧いただける…そんな楽しいガイドブックです。

さあ！あの頃の風を感じながら…
4次元ツーリズムのはじまりです…。

course index

★武田城下町タイムスリップコース

■甲斐府中の古道を歩く
(武田信玄と戦国時代) ……3・4

◎オプションスポット紹介

●武田三代の盛衰体感

武田家墓所巡り ……5・6

信玄の生涯ゆかり巡り ……5

甲府五山と甲斐善光寺 ……6

★甲府城下町タイムスリップコース

■二の堀跡を歩く
(近世城下町) ……7

■その華やかな町人文化
(近世城下町) ……8

★+α4次元体感(まちあるき)コース

■甲州道中+α
(酒折～中心街) ……9・10

●弘法大師伝説+α
(湯村温泉郷) ……11

●太宰治が愛したまち+α
(朝日通り周辺) ……12

●中道古墳群+α
(曾根丘陵公園) ……13

★郷土ゆかりの人物紹介+散歩コース

●山崎方代
(漂泊歌人と中道往還) ……14

●長田円右衛門
(御岳昇仙峡開発) ……14

■は基本モデルコース

監修/山梨郷土研究会 林 陽一郎



昇仙峡の初夏

武田神社のお堀

古代

甲府市は縄文時代の遺跡が北部の山間地域から中部にかけてありました。現在曾根丘陵公園(旧中道町地域)には多くの古墳が残り往事の雰囲気を楽しめます。また弥生時代の遺跡は湯村温泉郷の万寿森古墳(横穴では県内最古種)・加牟那塚古墳(横穴では県内最大)など渡来人ゆかりと思われるものもあり住民の変遷もうかがわれます。

古中 代世

律令制下の古代甲斐国の豪族は早くから畿内王権と関わりをもち、ヤマトタケルノミコが東征の帰路に立ち寄ったことでも知られています。また仏教文化を積極的に導入。東部では川田瓦窯跡や土器遺跡など森林資源を活かした工業生産もありました。さらに金峰山の山岳信仰や、平安時代中期の一の森山頂などで塚造宮が行われたりと宗教色も濃くなり始めます。

中近 世世

源氏の子孫が甲斐源氏として県内で発展。中世になると源頼朝の挙兵に呼応し参戦しますが一時甲斐源氏は衰弱します。しかし戦国時代には武田氏が国内統一を進め、永正16年(1519)には武田信虎が躑躅ヶ崎館(現武田神社)を築き、信玄、勝頼と繁栄するのですが織田軍との戦で滅亡。その後、織田・豊臣・徳川氏の統治時代にも甲斐の中枢として存続。特に江戸時代は幕府直轄領などとして江戸文化も流入しました。

近現代

明治には初代の県知事、藤村紫朗が殖産興業と並行し市街を開発し、製糸業(山梨では養蚕が発展)を奨励。また「藤村式建築」と呼ばれる擬洋風建築も各所で見受けられ、近代化が進みました。昭和になると甲府空襲で一時焼け野原となるも、復興し現在に至ります。また宝飾加工や果樹栽培・ワイン醸造等も国内有数の街として有名です。

甲府市歴史エリア全体図



武田城下町

TAKEDA JYOKAMACHI
タイムスリップコース

人は城、人は石垣、人は堀、
情けは味方、仇は敵なり



信玄は戦に対する考え方も独特で、その後の治世まで考慮し、「相手を壊滅的にする勝利はかえって良くない、五から六割くらいの勝利がベストである」と言い残しています。相手の兵や民の尊厳まで深く考える武将だったのです。



一年中参詣の方が絶えません

ここまで 45分

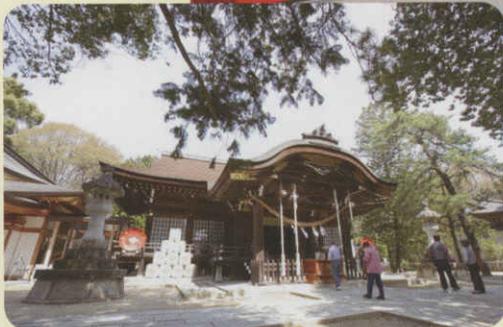
躑躅ヶ崎館跡(現・武田神社)

(つつしがさきやかたあと)

その名の通りツツジがいっぱいの里でした。信玄の父・信虎が石和からこの地に居館を移し、主郭が築かれました。現在は武田神社となっています。宝物殿には館の復元模型や縄張り図をはじめ、武田氏ゆかりの文化財が展示されています。

●周辺国の情勢が急であったのか、信虎は完成前こちらに移ったそうです。平城ではありますが、三日月型の堀を数個扇型に配置したり、背面の山城配置など緻密な計算がなされ、当時とすると最大級の規模でした。

宝物殿DATA ●9:00~16:30 ●300円



智将武田信玄で有名な甲府ですが、その父信虎の甲斐統一、信玄の子勝頼での終焉までわずか六十数年しかありません。しかし、その治世は戦のみならず、「法」「土木」「通貨」に至るまで優れた江戸幕府のお手本となったことは有名です。

甲斐府中の古道を歩く「戦国時代」

(表示の時間は移動時間の目安です。※見学時間含みます)

ここまで 40分

古八幡神社(ふるはちまんじんじゃ)

武神としての勧請でしょう

鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮を勧請したもので、信虎によって石和から躑躅ヶ崎館西側に移されました。その後、時代とともに移転し現在地に。峰本自治会館奥に祀られています。武田菱も見えますね。



ここまで 35分

松木堀(まつきぼり)

武田神社がお城だったなごり

武田氏滅亡の後、躑躅ヶ崎館の防御のために増築された梅翁曲輪(ばいおうくるわ)を囲むお堀。その一部が今も残っています。



駅から武田神社まで桜並木!

柳小路(やなぎこうじ)

現在の武田神社に続く武田通り。躑躅ヶ崎館を中心とする城下町の北半分にあったこの通りには、武家屋敷が立ち並んでいたと伝えられています。春は延々と続く桜並木。

ここまで 10分

西昌院跡(六角堂)

(せいしょういんあと)

勝頼ゆかりのお地藏さんがかわいい

武田勝頼が建てた、信虎の側室(または信玄の姉)の菩提寺跡。今は六角堂だけが残っていて、お堂の中にはお地藏さんが三体安置されています。



覗いてみました

ここまで 7分

満蔵院(まんそういん)

信虎の夢のあと

信虎が霊夢を感じて像を造り、建立した清水寺が前身です。その後、信玄が毘沙門堂をこの寺に移して改称(信玄の祈願寺)。境内にある石造りの狛犬は市内最古のものです。



ちょいメモコラム

おぼえトク

甲府という名の由来は?

甲斐国の府中を略して「甲府」。信玄の父・信虎が居館を石和から川田、そして躑躅ヶ崎に移した際に命名しました。ですが実際にこの呼び方が定着したのは近世以降といわれています。

甲府駅北口

※北口にもタクシープールがあります。
※駅から武田神社までは長い上り坂です。体力自慢の方にはオススメ。
(甲府駅-武田神社の路線バスあり)

スタート & ゴール

※甲府駅北口にはレンタカー会社が多数あります
※甲府駅北口から武田神社まで路線バスがあります
●各ポイントともPマークの無い所は駐車場はありません
Pマークは有料駐車場です

甲府盆地の西側が一望できる場所にひっそりと・・・



可愛い仏足石がありました

河尻塚 (かわじりづか)

ちょっと怖いお話です

武田氏滅亡後、織田信長の家臣・河尻秀隆は甲斐一國を与えられました。本能寺の変により地位が暗転。一揆が起こり、この地に逆さまにして埋められたと伝わります。



ここまで 73分

ここまで 95分

大泉寺 (武田信虎墓所) (だいせんじ)

直線美、建築家の方、デザイナーの方必見
信玄の父・信虎が自ら開基したお寺。本堂左奥に墓所があり、門や石畳などのデザインがなかなか特徴的で面白いのでぜひ。境内の東側には夢見山稲荷もあります。

●信廉による父・信虎の肖像画をはじめ、多くの文化財が残っています。最近ではパワースポットとしても有名に。



ここまで 70分

武田信玄火葬塚

(たけだしんげんかそうづか)

信玄最初のお墓

信玄の遺骸が最初に収められていた場所。彼は最期に3年間の秘喪を命じ、勝頼はそれを守って3年後に恵林寺にて葬儀を執り行いました。わずか享年53歳の生涯でした。



地元の方々がかきれいにしています



塀のデザインもおしゃれ!!

ちょっと階段きついけど眺めが最高

ここまで 110分

華光院 (けこういん)

上の太子堂から南アルプスが一望です

信虎が建てた荒神堂を、信玄がこちらに移して真如山華光院良林寺と名づけ、祈願所としました。山梨県には数少ない真言宗のお寺です。



太子堂

ここまで 130分

愛宕神社 (あたごじんじや)

鬼門が怖かったんですね

もとは武田氏居館の北東に鎮守として祀られていましたが、徳川家康の先陣祈禱の折、甲府城の鬼門除けに現在地へ移されました。



池のカタチがコニークです



ここまで 145分

長禅寺 (信虎正室墓所) (ちようぜんじ)

母を近くに・・・名将も人の子

信玄の母・大井夫人の菩提寺。もともと鮎沢(現南アルプス市)にあったものをこの地に新たに創建し、鮎沢の方は古長禅寺となりました。信廉が描いた夫人像が保存されています。

ここまで 160分

ゴール 甲府駅北口



武田家 墓所巡り

それぞれに由緒ある墓所巡りは、信玄の周りにいた人々にもスポットがあり、武田家のイメージがさらに膨らみます。



入明寺 (信玄次男・竜宝墓所)

(たけだりゅうほうのはか)
武田家終焉の際にここで切腹
信玄の次男・竜宝のお墓です。信州海野城主となったこともありますが、生来目が不自由で早くから仏門に帰依し、半僧半俗でもあり「お聖導様」と呼ばれました。



円光院 (信玄正室墓所)

(えんこういん)
武田神社を望む場所で眠ります
信玄は元服後に公家の名門から三条の方を正室として迎えます。夫人亡き後、法名にちなんで改称されたこのお寺には、嫁いだ際に持参した木造釈迦如来坐像や彼女が皇室から特別に使用を許可された愛用の鏡も現存しています。



法泉寺 (武田勝頼墓所)

(ほうせんじ)
夢窓国師ゆかりのお寺でもあります
南北朝時代に甲斐国の守護を務めた武田信武が創建。信玄からは9代前に当たり、武田氏中興の祖といわれています。また、信玄の息子・勝頼の菩提寺ともなっています。
●信長により京都の市中に晒ものになっていた、勝頼の亡骸の一部を密かに甲斐に運び、このお寺に安置し、後に正式に墓所となりました。

躑躅ヶ崎館跡 (武田神社)

(つづしがさきやかたあと)
領国支配の中心
まさに信玄が住み、指令を出した場所。この地に立てばここが天然の要害である事がよくわかります。



武田信玄火葬塚

(たけだしんげんかそうづか)
密かに茶毘に付された信玄のお墓
地元から摩縁塚と恐れられていたこの塚を甲府代官が発掘し、「法性院機山信玄大居士 天正元年癸四月十二日葬」と記された石棺を発見しました。没後200年のことでした。



夢見山

(ゆめみやま)
信玄誕生にまつわる伝説の丘
飯田河原合戦の際に信玄がここで若君誕生の夢を見たという伝説や信玄本人がここにある石を枕に戦いの勝敗を占う夢を見たといったような言い伝えがあります。大泉寺の東側です。

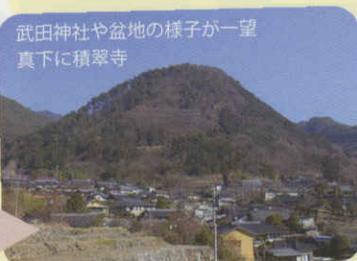


大泉寺境内から見える夢見山境内には夢山稲荷もある

※甲府駅北口から武田神社まで路線バスがあります

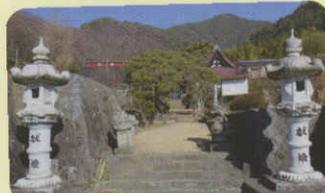
武田三代の盛衰体感 オブショナル スポット紹介

信虎・信玄・勝頼と甲斐の国を統一後の栄枯盛衰を感じながら甲府市北部を巡る二つのオブションをご紹介します。



要害城跡

(ようがいじょうあと)
居館を防衛する山城がありました
信虎が居館の援護地として築いた城の跡、完成して間もなく駿河勢が侵攻してきましたが、無事に撃退し、ちょうど国主としての地位が固まった頃に信玄が生まれました。



おぼえどく 三日月堀はあの軍師?

館の東側に大手口があり、そこに武田家の城の特徴である三日月堀がつくられました。これは伝説の軍師・山本勘助の助言によるものとも伝えられています。

信玄の生涯 ゆかり巡り

武田信玄の生い立ちから最期までを五つのスポットで一気に把握。エピソードを知れば彼の人間性がより身近に感じられます。



武田信玄火葬塚

(たけだしんげんかそうづか)

三年の間、死を伏せさせた信玄でした。三河攻め途上で病死した信玄の遺体は、武田24将の一人、土屋右衛門昌次の邸内に仮埋葬されていました。後に銘が記された石棺が発掘され、墓と定められました。



織田信長の軍に甲斐国内を攻められ、墓所やお寺自体も襲撃され消失したものもありましたが、なぜか敵であったはずの徳川家康や江戸幕府などにより多くのお寺やお墓が丁寧に再興されました。



東光寺(信玄嫡男:義信墓所)

(とうこうじ)

北側のお庭の拝観もおすすめてす。源義光が祈願所としていた興国院を鎌倉期に渡来僧の蘭溪道隆が再興し、信玄の保護を受けたお寺。裏山には諏訪侵攻で連行された諏訪頼重や謀反の疑いをかけられた武田義信の墓所も残ります。仏殿は国の重要文化財。



大泉寺(武田信虎墓所)

(たいせんじ)

建物の奥に墓所がひっそりと囲われています。信玄の父・信虎が自らの位牌所として創建したお寺。その後48歳の時に甲斐国を追われ、諸国を30年余り流浪した信虎は結局、帰国願いが叶わずに信州で病没しました。孫の勝頼によりここ大泉寺で葬儀が執り行われました。

●信虎は奇行や野蛮で非道な行為が多く、家臣の精神的な離反もあった様です。対外的には父を追放した不孝者として信玄は揶揄されました。それに怒った上杉謙信の話も有名ですね。



要害城跡

積翠寺

逍遙院(信玄実弟:信綱墓所)

(しょうよういん)

元祖「信玄の影武者」は絵が得意でした。信玄の実弟・武田信綱(信廉)の菩提寺。信玄によく似ていたため影武者として敵方を欺いたという逸話も残っています。また、絵の才能もあり彼が描いた父(信虎)や母(大井夫人)の像は国の重要文化財に指定されています。



周囲にはブドウ畑がいっぱい



長禅寺(信虎正室墓所)

(ちやうぜんじ)

信玄のお母さんのお墓があります。信玄の母・大井夫人の菩提寺。夫人は故郷(現・南アルプス市鮎沢)の長禅寺(現:古長禅寺)住持に深く帰依し、彼に信玄の家庭教師役も依頼しました。信玄はここで儒学や禅、治国を修学。出家の儀式もここで行いました。この甲府の長禅寺は大井夫人墓所ともども移されたお寺。



甲斐善光寺

(かいぜんこうじ)

信玄の信濃侵攻を伝える寺は、文化財の宝庫。川中島合戦の際に、信玄が戦火にあうのを避けてご本尊などの寺宝を甲州に移し建立したお寺。入母屋造の本堂は東日本でも有数の木造建築物で、山門や阿彌陀如来像とともに国の重要文化財に指定されています。

オアシスなスポット

甲府五山と甲斐善光寺

臨済宗に帰依した信玄が、京都や鎌倉五山にならい定めた甲府五山。



咳止めには「おせきばあさん」!?

甲斐善光寺山門をいってすぐ右に、咳止め願掛けの「おせきばあさん」があります!咳が無事止まったら、お礼にアメを奉納するのです。咳(せき)=石(せき)...



長禅寺(ちやうぜんじ)

甲府五山の筆頭格。信玄の人間形成に大きく貢献

甲府城下町

タイムスリップコース



ここまで 30分

御金蔵稲荷

(コキンゾウイナリ)

泥棒除けにご利益!?

公金が何と1400両も盗まれたという、享保19年の有名な甲府城御金蔵破り。その後造られた御金蔵が移転し、昭和初期にお稲荷さんとして生まれ変わりました。今では逆に、盗難除けのご利益があると親しまれています。

●朝日二丁目

二の堀跡 (ニノホリアト) ここまで 20分

北から西側にあった堀

甲府城の武家地の内郭部分を囲んでいた堀の跡。甲府勤番役宅や年貢米を保管する米蔵、菜園、学問所(徽典館)などがあった。ここから三の堀のエリアは商人や町人の住む地域とはっきり区分けされていました。



ここまで 15分

御先手小路

(オサキテコウジ)

治安維持の隊の名が道

江戸期、各門の警備や治安維持、将軍外出時の護衛などを任されていた先手組(さきてぐみ)にちなんで名づけられました。甲府城北郭内に位置した南北の小路のこと。



太宰治ゆかりの地域でもある

スタート

ここまで 120分

ゴール

甲府駅北口

ここまで 55分

甲府上水跡

(コウフジョウスイアト)

水不足の対策水路

甲府城下町の水は鉄分が多く、飲用には不向きなため、相川と荒川から取水し、堰が敷設されました。それでも明治に新上水路が建設されるまでは慢性的な水不足に悩まされ、周辺一帯では紛争が頻発しました。

徽典館跡

(キテンカンアト)

学問所の由緒を偲ぶ

寛政8年頃に設置された甲府城郭内の学問所。当初は甲府城代の勤番師弟の教育が目的でしたが、享和3年に追手門南に移転してからは庶民にも開放されました。徽典という名は書経に由来しています。現在の山梨大学の前身。

●甲府市丸の内1丁目

甲府城を中心に周囲には、勤番幕府直参屋敷などがありました。現在その殆どが埋め立てられてしまいましたが、二の堀跡周辺意外な発見もありそうです。

二の堀跡を歩く【近世城下町】

(表示の時間は移動時間の目安です。※見学時間含まず)

まさに散策!

ここまで 70分

舞鶴城公園

寛政8年頃に設置された甲府城郭内の学問所。当初は甲府城代の勤番師弟の教育が目的でしたが、享和3年に追手門南に移転してからは庶民にも開放されました。徽典という名は書経に由来しています。現在の山梨大学の前身。

●甲府市丸の内1丁目

柳町大神宮

(ヤナギマチダイジングウ)

横近習大神宮

(ヨコキンジュダイジングウ)

節分には通りが店दैいっばいになり当時は偲ばせず甲府三大祭りのひとつ、節分祭で有名な二つの大神宮。地元の人々に「大神(だいじん)さん」と呼ばれ、古くから親しまれています。2月3日には赤鬼や青鬼も登場して盛大に豆まきが行われ、大勢の人でにぎわいます。



ここまで 95分

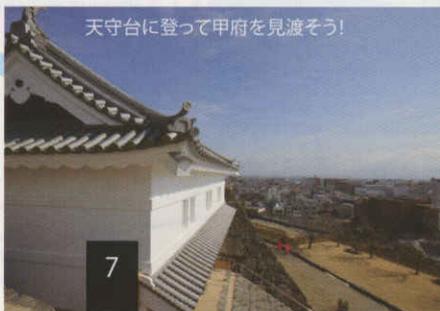
ここまで 110分

舞鶴城公園

(マイツルジョウコウエン)

武家滅亡後、秀吉の命により築城された甲府城を別名「舞鶴城」と呼んでいます。江戸時代は幕府直轄領「甲府勤番」のための大切な城でした。現在一帯を公園として無料開放。最近では鍛冶曲輪門や鉄門(くろがねもん)、稲荷櫓も復元されました。最上部分からは甲府市南方面が一望!! 歩いてコースを見てみましょう。

DATA※JR甲府駅南口「稲荷櫓(イナリヤグラ)」他 ●9:00-16:30(入館は16:00まで) ●月曜(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始 ●無料



天守台に登って甲府を見渡そう!

ちいメモコラム

おぼえたく

甲斐奈神社で合格(ごをかく)祈願する?

神社境内西側にある小さいお社群のなかのひとつに「五を書く」場所があります。つまり「ごをかく」...

KOFU, YOKAMACHI
甲府城下町
タイムスリップ
コース

◆その華やかな町人文化「近世城下町」

名君であった信玄の治世を経て、幕府直轄領でもあった甲府(駅南部)には、安心感からか職人や商人の暮す下町にも小江戸気分が漂いました。

スタート
甲府駅北口



ここまで 3分 **山手御門**

(ヤマノテゴモン)
当時の石垣を土台に昔ながらの工法で復元

かつて甲府城北側にあった門。渡櫓門(わたりやぐらもん)と山手門を総称して呼びます。山手門は城門、渡櫓門は武器庫という役割がありました。渡櫓門の中には歴史資料も展示され、展望スペースからの眺めも抜群です。

DATA※JR甲府駅北口「甲府市歴史公園」内
●9:00~17:00
●月曜(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
●無料



春は桜の名所です



ここまで 15分 **舞鶴城公園**(マイツルジョウコウエン)

新撰組(甲陽鎮撫隊)が入っていたかもしれませんが幕末、新撰組は鳥羽伏見の戦いに敗れ江戸へ帰りました。その後、近藤勇は「甲陽鎮撫隊」を組織。甲府へ向かいましたが、勝沼に到着した頃には、甲府城は既に板垣退助ら官軍方の手に。結局、両軍は勝沼で戦い、官軍が勝利。近藤勇がもう少し早く甲府に向かっていたら、甲府城の歴史も違っていたかもしれませんね。



ここまで 5分

三念坂

(サンネンザカ)

命名センスが素敵

「ここで転ぶと良くないので、念を入れて転ばないように歩きなさい」といういわれがある坂。坂の上から富士山がよく見えます。



ここまで 25分

横近習大神宮

(ヨコキンジュダイジンクウ)

柳町大神宮

(ヤナギマチダイジンクウ)

節分には通り一帯で大祭礼が催され大勢の人で賑わいます

普段は人気の無い静かな神社ですが、甲府三大祭りの盛大な節分祭で有名な二つの大神宮です。



ここまで 35分

金手駅(カネテエキ)

敵が攻め入る場合を想定し、直線の道を2つの直角で曲げている様子が大工さんの使う「金尺」に似ている事から「金手」と名がついた地区です。



ここまで 120分

ゴール

甲斐奈神社

(カインジンジャ)

信玄の父、信虎ゆかりの地

当初、愛宕山山頂に鎮座していましたが、武田信虎の築城に際し、現在の地に遷座。同じ甲府国鎮守の神として尊崇されてきました。同名の神社は県内に三社あります。



ここまで 110分

天尊鉢寺(ソントウシ)

江戸時代の旗本の墓石も多数残るお寺です

ここへ移転する前は甲府北部にあつて徳川家康が本陣とし、大久保長安ともゆかりの深いお寺。

●城東一丁目13-17



ここまで 95分

ここまで 45分

三の堀跡(サンノホリアト)

今も残る大外の堀の跡

城を中心に内堀、二の堀、三の堀に分けられていた甲府城下町。三の堀は一番外側にあり、商人や職人が住むいわゆる下町エリアでした。

※内堀だけでも東京ドーム4個分の面積。いかに広大だったかがわかります。



各家庭に橋がかかっています



金山神社

(カナヤマジンジャ)

職人の信仰が今も残る

武器製造から道具製造まで、鍛冶職人エリアだった周辺。職人たちが敬う踏鞴(たたら)の神を祀る神社です。狛犬さんが迫力。

ここまで 55分

教安寺(キョウアンジ)

家康の8男のお墓もある

全国を行脚していた木喰が文化5年に訪れ、七観音を造立したお寺。七観音は残念ながら甲府空襲により焼失してしまいました。

●城東二丁目8-4

※1765年、亀屋兵衛が境内に仮小屋を建て、浄瑠璃仕形芝居の興業を行いました。これが亀屋座の前身です。



ここまで 90分

亀屋座跡(カメヤザアト)

小江戸と呼ばれた名残り

江戸期の有名な芝居小屋跡。甲斐国は市川團十郎ゆかりの地であり、上演される歌舞伎は品目に優れ、間口11間、奥行20間という規模もさることながら関東では有数の大きなものでした。

※当時、甲府の街は「小江戸」と呼ばれるほどにぎやかだったそう。「芝居が当たるかどうかは亀屋座で試せばわかる」と言われたほど。

ここまで 50分

山神社(ヤマジンジャ)

桶屋町の木に対する崇敬

江戸時代、ここは桶職人の町でした。職人たちが使う木を担う山の神を祀っています。

ここまで 60分



ここまで 75分

文殊稲荷(モンジュイナリ)

親の願いは何時も同じ

文殊(知恵)を司る菩薩を祀るお稲荷さん。創立は文政以前と伝わります。毎年9月にはお祭りが行われます。

ここまで 80分

笠森稲荷(カサモリイナリ)

病気平癒の願掛けか

江戸からの移住の人々のなごりでしょうか。江戸の谷中に(他県にもありますが)ある皮膚病治療の願掛けで有名な稲荷がありますね。狐さまがすごい流し目です。必見!





愛宕山はこのような岩がいっぱい！

ここまで 40分 **大地蔵**

(だいじそう)
こう名付けざるをえないと実感しました。

体に見立てた自然石の上に人工的に彫った頭部をのせた、一風変わったお地藏さまは首地藏といひ山梨の各地に点在します。宝永4年(1707)の建立で高さは5.6m。現在の頭部は新しく作られたものです。隣には熊野神社の祠と山の神の石碑もあります。※写真に写ってくれた小学生の子は身長145cmだそうですのでその大きさを感じてください。

大仏さん？



写真は南口

駅前の信玄公像とパチリ



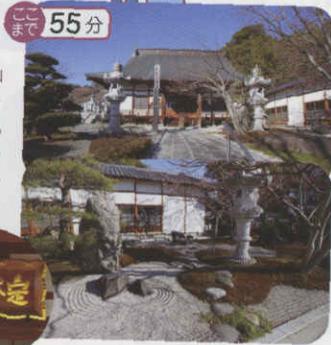
ゴール

ここまで 130分 **甲府駅**

能成寺 (のうじょうじ) ここまで 55分

富士山もよく見える

信玄が定めた甲府五山の一つ。信虎の曾祖父・武田信守の菩提寺で、もとは笛吹市にあったものを移しました。愛宕山の南東麓に位置し、芭蕉の句碑もあります。



ちいメモコラム

おぼえトク

甲府柳町宿とは？

(こうふやなぎまちしゆく)
直轄領の本陣エリアでした
甲州道中の甲府宿の正式名称。甲府城下町の中心地として発展した柳町は問屋場などの機能が集中していました。本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠21軒ありました



ここまで 95分

徹感館跡 (ていせんかんと)

当時の向学の志に共感

江戸時代に創設された甲府学問所。移転を重ね、明治9年に今の中央公園付近へ移りました。現・山梨大学の前身です。公園内に石碑が建てられています。

桜の季節もおすすめ



写真は鉄門 (くろがねもん)

ここまで 125分

舞鶴城公園 (まいづるじょうこうえん)

ゴール間近。天守台でコース実感

甲府城跡が公園として整備され、一般開放されるようになったのは明治期です。最近では、鍛冶曲輪門や稲荷曲輪門、稲荷櫓などが復元され、都市公園に生まれ変わりました。桜の名所としても有名。天守台からは360度の眺望が楽しめます。

みのお路分岐点 ここまで 105分

(みのぶじぶんきてん)

南は静岡、西は信濃
旅人の心模様を体感

かつて甲州道中沿いで信濃路と河内路(みのぶ路)との分岐点を知らせていた道標。甲府空襲で焼失したものを住民らが再建しました。丸の内郵便局東交差点にあります。



気品溢れる仏殿の建築美



ここまで 30分

東光寺 (とうこうじ)

仏殿と庭園の精神性を体感

甲府五山の一つ。創建年は不明ですが、平安末期に甲斐源氏の祖・源義光(新羅三郎)が祈願所として諸堂を建立し、興国院と名づけたといわれています。東光寺と改名されたのは鎌倉期のこと。仏殿は国の重要文化財で、蘭溪道隆の作と伝わる庭園は一見の価値があります。



庭園拝観は有料

山、とはいってもチョットです



ここまで 65分

山八幡神社 (やまはちまんじんじや)

天体パワーを体感？

甲斐市(旧竜王町)から甲府(八日市場)へ遷座し、甲府城の築城でさらに現在地へ移されました。境内には古代の天体図石と伝わる「妃懐石」があります。



天尊神社 ここまで 70分

(そんたいじ)

歌碑の多さを実感

信虎が建立したお寺。信玄の家臣で後に徳川家康に見出され、佐渡金山など多くの鉱山を開発した大久保長安の墓や、甲斐出身の俳人・山口素堂の墓碑があります。



家康ファミリーともご縁がある



ここまで 75分

教安寺 (きょうあんじ)

大きな石仏や古い鐘があったり江戸の香りも体感

「大地蔵石幢」は中世の甲斐石造物文化を代表するもの。またここでは、甲府初の芝居小屋がおかれた場所です。江戸時代、甲府に来て琴や三味線を教えた謡曲師のお墓もあります。●家康の8男のお墓もなぜかあるのです。



至願立美術館

10
4次元体験
35分コース

甲州道中10（酒折く中心街）

さかおり

（表示の時間は移動時間の目安です。※見学時間含まず）

ヤマトタケルノミコトと連歌の里「酒折」から、歴史風土に触れながら甲府中心街へ散策するルートです。ブドウ園の中の田舎道を歩いたり、お土産を買ったりもできる楽しい道。車と歩きのミックスでもOK。四季折々の風情がステキです。

本殿周辺の石仏も可愛いのが多いです



ここまで 20分

甲斐善光寺

（かいぜんこうじ）

信玄の信仰を実感

信玄が川中島合戦で信濃善光寺の焼失を恐れ、本尊などを甲斐国へ移して建てたお寺。国指定の文化財である金堂や山門は荘厳な雰囲気さを漂わせています。巨大な龍が描かれた金堂の吊り天井は、手をたたくと共鳴が起こるしくみで「日本一の鳴き龍」と呼ばれています。宝物館もあり。



境内ゆっくり見てね



ここまで 5分

酒折宮

（さかおりのみや）

連歌発祥の地とされる
いこしえの風を体感

古代、ヤマトタケルノミコトが東夷征伐の帰りに立ち寄ったと伝わる場所。その際、尊が歌を詠み従者に問いかけたところ、誰も答えられなかったのを、火燭人が返歌したことに感嘆し、厚く褒美をしたという話が『古事記』に載っています。この問答から「連歌発祥の地」とされています。

箱根駅で有名な山梨学院大学が近くに 있습니다



本居宣長の碑文

ここまで 15分

ポンポコ塚

民衆のネーミングセンスにとっても共感

ぶどう畑の中にある円墳。変わった名前は、その昔、付近の農民が雨乞いの行事をする際に雨が降るまでポンポコ、ポンポコと太鼓を打ち鳴らしたことに由来しています。



ちよいメモロテム

おぼえトク スタート地点

酒折が山梨の中心地？

中世以前には、甲斐の国の道は酒折宮を起点とされていました。ここから各方面に九筋（くすじ）の道がはじまりました。

※甲府駅南口にはレンタカー会社が多数あります
●各ポイントともPマークの無い所は駐車場はありません
Pマークは有料駐車場です

スタート



酒折駅

（さかおりえき）

●梅の花の名所「不老園」

山梨学院大学付属中学校

酒折宮

酒折宮

山梨学院大学



※甲府駅から酒折駅まで普通電車で約4分です
※酒折駅南北の自由通路があります
※酒折駅は特急は停まりません
※--- 甲州道中

19
4次元降臨
湯村温泉郷
めぐり

弘法大師伝説 19 (湯村温泉郷)

表示の時間は移動時間の目安です ※見学時間含まず

弘法大師が開湯したと伝わる湯村温泉郷は、信玄の隠し湯としても知られ、旅館やホテルも多く、多彩な文化人にも愛されてきました。観光巡りの拠点に最適です。



ここまで 16分

杖の湯跡 (つゑのゆあと)

現弘法湯の裏手にひっそりと佇む弘法大師が東北巡行の帰り、道の真中で通行を困難にしていた大きな石を呪文を唱えて杖で寄せたところ、そこから温泉が湧き出したと伝えられています。



ここまで 13分

地藏古墳 (じぞうこふん)

大きなものは2つ現存塩澤寺裏手から湯村山の遊歩道を少し登ったところにあります。横穴式の石室が開口しています。全長6m。※絶対に中に入らないでください。



ここまで 10分

塩澤寺 (えんたくじ)

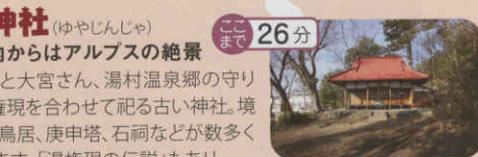
厄年の厄除に大人気です弘法大師が開山し、空也上人が創立したとされるお寺で、毎年2月13日正午から14日正午に開かれる「厄除け地藏尊祭り」には県内外から大勢の人々が訪れます。東西に長く枝を伸ばした樹齢450年以上の「舞鶴の松(甲府市指定天然記念物)」も見事。



ここまで 30分

湯村温泉郷ゆかりの人物資料室

太宰をはじめ文豪との縁を紹介近年オープンしたばかりの新しい観光スポット。湯村温泉郷には名だたる文豪が滞在し執筆活動を行いました。その歴史を趣向を凝らして様々な角度から紹介しています。
【DATA】④無料 ⑤10:00-17:00 ⑥日曜、年末年始



ここまで 26分

湯谷神社 (ゆやじんじや)

上の境内からはアルプスの絶景秋葉権現と大宮さん、湯村温泉郷の守り神・湯谷権現を合わせて祀る古い神社。境内には石鳥居、庚申塔、石祠などが数多く残っています。「湯権現の伝説」もあり。



ここまで 30分

湯村温泉郷ゆかりの人物資料室

太宰をはじめ文豪との縁を紹介近年オープンしたばかりの新しい観光スポット。湯村温泉郷には名だたる文豪が滞在し執筆活動を行いました。その歴史を趣向を凝らして様々な角度から紹介しています。
【DATA】④無料 ⑤10:00-17:00 ⑥日曜、年末年始

加牟那塚古墳 (かむなづかこふん)

渡来人の知識や知恵が甲斐にも来たのです高さ約7m、直径45mの大きな円墳で県の文化財に指定されています。珍しい名前は朝鮮(高句麗)に由来。6世紀後半頃には日本へ上陸した渡来人が甲斐へも来ていたことがうかがえます。

ここまで 2分

水道みちと千塚公園の間



水道みち

車は通れませんが、とても真すぐで通学には最高ですね湯川にそって北西にまっすぐ伸びる道を通称こう呼んでいます。平瀬浄水場から愛宕山の配水池まで1.8kmの道に水道管が埋まっていたのでこの名がつけられました。



谷の湯跡 (たのゆあと)

塩がとれた?湯量は豊富でしたが、非常に塩分の高いお湯でした。塩澤寺や塩部という名はその名残りといわれ、江戸期から明治期には牛馬が休む浅瀬の湯船も設けられていたそうです。

ここまで 40分



万寿森古墳 (まんじゅもりこふん)

火薬保管にも使った入り口から奥まで14mの大きな横穴式石室がある円墳です。武田・徳川の時代には火薬庫として使われ、「御煙硝蔵」と呼ばれていました。墳丘は松・笹が群生しています。

スタート



千塚公園

トイレや駐車場があります。広芝生の公園です

おぼえとく

湯村八蹟とはなんですか?

諸説ありますが、湯村温泉郷にある8つの史跡をいいます。塩澤寺、鷺の湯跡、杖の湯跡、八の宮跡、谷の湯跡、そして、地藏古墳・加牟那塚古墳、御煙硝蔵(万寿森古墳)のことをいいます。



※甲府駅南口から湯村方面路線バスがあります
※甲府駅南口にはレンタカー会社が多数あります
●各ポイントともPマークの無い所は駐車場はありません
Pマークは有料駐車場です

10の
4次元体験
歴史物語列車
こうふ
コース

中道古墳群 10 (曾根丘陵公園)

(表示の時間は移動時間の目安です。※見学時間含まず)

○中道往還十古代人と丘陵散歩
甲府南インターチェンジ近くには、古墳群が分布しています。気持ちのいい芝生広場に歩道やベンチもあり、周囲の山の展望や季節の花も楽しめます。



ゴール

ここまで **30分**

銚子塚古墳

(ちょうじづかこふん)
上からの風景はなかなかです
4世紀後半につくられた東日本最大級の前方後円墳で、国指定の史跡。お銚子(柄の長い酒器)に似ていることから名づけられました。周溝をひとまわりして見学できます。



ここまで **28分**

丸山塚古墳

(まるやまづかこふん)
すでに鉄がここまで来ていた!
銚子塚古墳の隣にある円墳。ここからは5世紀初め頃の鏡や鉄斧など副葬品が見つっています。直径72m、高さは11mで墳上には桜の木があります。国指定の史跡です。

方形周溝墓

(ほうけいしゅうこうぼ)
迷路みたいにあそべます
弥生時代後期から古墳時代前半につくられたもの。墓の周りに溝を方形に掘り、内部に盛土をしているのが特徴で、共同墓地だったと推測されています。現在、35基を復元。



植木で四角くカタチを残しました
中程の4人掛けテーブルと大きさを比べると…

スタート



●展示研修施設の前の遊具広場は様々な遊具があり無料であそべますので、お子連れでご家族におすすめです。
※博物館周辺と丘陵上の展示研修施設はかなり高低差がありますのでご注意ください。



北の方に金峰山が見えます

ここまで **25分**

岩清水遺跡

(いわしみずいせき)
ミニサイズの前古墳です
弥生時代後期の住居跡や古墳時代中期の円形周溝墓などがあります。墳丘の周りを砂利で埋め、周溝を復元。また、ここからは須恵器や土師器(はじぎ)も出土しています。



ここまで **20分**

ナウマン象がお出迎え

山梨県立考古博物館

(やまなしけんりつこうこくはくぶつかん)
甲府盆地の変遷が丸解り!
約3万年前の旧石器時代から現在までの山梨県内で発掘された考古学資料を数多く収蔵・展示しています。中でも縄文土器のコーナーは見ごたえがあります。
DATA ☎055-266-3881 ①大人210円
②9:00~17:00(入館は16:30まで)
③月曜、祝日の翌日、年末年始

ここまで **5分**

東山南遺跡

(ひがしやまみなみいせき)
渡来人文化が残ります
弥生時代後期から古墳時代中期にかけての遺構や遺物が発見された場所。朝鮮からの渡来人より伝えられた須恵器(すえき)が出土されています。

風土記の丘農産物直売所

地元の産物が色々そろって楽しい!
甲府南IC近くにあります。美味しくて新鮮な野菜や果物をはじめ、山梨のお土産も販売。帰りによってみるのも楽しみの一つ。火曜定休。9:00~17:00



右左口の里

(うばくちのさと)
富士五湖スタイルの釣り堀も
釣り堀やバーベキュー場、パンガローなどがそろっています。陶芸教室内には山崎方代の資料館もあり。月曜定休。9:00~17:00。TEL055-266-4680



とにかく最短距離をってかんじ

ちょいメモコラム
おぼえトク

中道往還ってどんな道?

甲斐と駿河を最短距離で結んだ古道。甲斐からその一番の難所・右左口峠へ向かう長い坂道沿いに曾根丘陵が位置し、商人や旅人でにぎわう「右左口宿(うばくちじゅく)」がありました。



山崎方代 (ほうだい)



○郷土ゆかりの人物紹介+歌碑をめぐる散策
山頭火や尾崎放也につながる「漂泊の歌人」山崎方代の生誕地を訪ね、彼の思想を形づくった原風景へ想いを馳せます。

山崎方代ってどんな人？

(やまざきほうだい)
知る人ぞ知る昭和の放浪歌人。右左口出身。戦争で右目を失明、左目も弱視に。戦後は孤独と貧困の中、鎌倉で創作活動を続けました。身近な事を題材にした口語短歌が共感を呼んでいます。



五番屯所跡



敬泉寺

敬泉寺

(ぎょうせんじ)
願掛けの石像もかわいい徳川家康が寺内に兵士のための仮小屋を建てたとか、高台に観音堂に見張りの兵を置いたとの話が伝わっています。



スタート



左口神社

左口神社

(さぐちじんじや)
地元の方が綺麗に整備しています
この地に農業(養蚕)を教えたといわれる珊瑚珠姫(さんごずひめ)を祀る神社。地元では「御作神(おさぐち)」とも呼ばれ、地名のもととなったという説があります。



カンカン地蔵

カンカン地蔵

(じそう)
方代も叩いたようですよ
県内最古級の厄除け地蔵。自分の体の痛い部分と地蔵の同じ部分を石で叩くと良くなるといわれ、この愛称がつかました。宿場町を見守るように宿の最北に鎮座しています。

円楽寺

(えんらくじ)
境内のイチヨウも(紅葉がすごい)文化財!
修験の祖・役小角(えんのおづ)によって開創されたと伝わる古寺。本堂に安置される役の行者坐像は国内最古級の木像です。また、方代の菩提寺でもあり毎年、彼の命日(8月19日)には「方代忌」が営まれます。



ゴール



長田円右衛門 (御岳昇仙峡開発)

○郷土ゆかりの人物紹介+渓谷美雄能ウオーキング
昇仙峡を拓いた男・長田円右衛門の功績をしのびつつ、景勝地として名高いスポットをじっくり散策するのもおすすめです。

長田円右衛門とは？

(おさだえんえもん)
江戸時代後期、甲斐猪狩村の出身で、人跡未踏の深山幽谷だったところを9年もの歳月をかけて御岳新道を完成。昇仙峡を世に知らしめた先覚者として知られています。

自在亭跡

(じざいていあと)
与謝野夫妻が逗留したところ
仙娥滝上にあった旅館の跡。現在の橋のたもとです。昭和9年に与謝野晶子・鉄幹が訪れた際、ここに宿泊しました。昇仙峡では31首の歌を詠んでいます。

円右衛門新碑

(えんえもんしんひ)
今も東屋があってほっとできます
遊歩道沿いの石碑。「手足にヒビ、アカギレを出しながら苦労して山谷を開削し...」と碑文からいかに当時の様子が困難だったかがうかがえます。

スタート

接待亭跡

(せったいていあと)
ここからの眺めがいいんです!
新道完成後、彼はこの場所にお休み処として「接待亭」を設けました。通行人にわらじを売ったり、湯茶の接待をしたそうです。俗称「お助け茶屋」とも呼ばれました。

昇仙峡とは？

(しょうせんきょう)
奇岩と清流のダイナミックな渓谷美で知られる国の名勝で文人らも多く来訪しました。名物の御岳そばを味わったり、ロープウェイやトデ馬車に乗ったり、一日楽しめます。

覚円峰

(かくえんぼう)
海外の方にも人気です
昇仙峡の主峰。高さ180mの巨岩でその昔、僧・覚円が頂上で修業したと伝わります。パワースポットとしても有名。

仙娥滝

(せんがたき)
豪快というよりは優美
仙娥とは中国神話に登場する女性名。高さ30mの壮麗な滝で新緑や紅葉、雪景色とどの季節も美しい眺めです。

ゴール

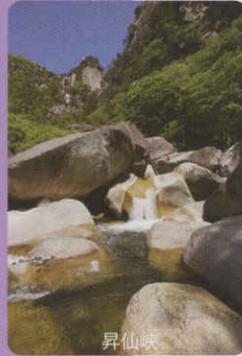
円右衛門の旧碑

(えんえもんきゅうひ)
現在は改修され移築
円右衛門生家近くにある石碑。彼の功績を称え、嘉永4年(1851)に建立されました。

乙骨耐軒の碑

(おつこつたいけんのかひ)
昇仙峡の名付け親か?
江戸時代の儒学者で徽典館の学長だった乙骨耐軒が撰文し、文人・浅野梅堂が書したとされる碑。「溪谷の美しさは仙岳に登る想い」と絶賛したことから昇仙峡の名がつけられたとも伝わります。

ことうふ 歴史物語都市



昇仙峡



千代田湖



銚子塚古墳



武田通り



酒折の不老園



甲府市は山梨県のほぼ中央に位置し、四季を通じて多彩な景観と産物を楽しむことができます。

電車ご利用の場合

- 東京方面から甲府駅
 - ◇JR新宿駅から「JR中央本線」：特急で約1時間30分
 - ◇JR大月駅から「JR中央本線」：特急で約30分
 - 静岡方面から甲府駅
 - ◇JR富士駅から「JR身延線」：特急で約1時間40分（静岡駅からは約2時間10分）
 - 長野方面から甲府駅
 - ◇JR松本駅から「JR中央本線」：特急で約1時間15分
- ※甲府駅南口にはレンタカー会社が多数あります。

高速バスご利用の場合

- 東京方面から甲府駅／◇新宿駅西口から約2時間10分
- 名古屋方面から甲府駅／◇名古屋駅から約4時間3分
- 関西方面から甲府駅／◇京都駅から約6時間
- 静岡方面から甲府駅／◇静岡駅から約3時間

車ご利用の場合

- 東京方面から甲府
- ◇新宿から—中央自動車道経由
甲府南IC、甲府昭和ICで降り表示に従ってください。
- 静岡方面から甲府
- ◇第二東名高速の新清水IC：国道52号を北上し、甲府市内を直指してください。
- ◇東名高速の富士IC：国道139号（西富士バイパス）を北上し、国道358号か国道137号を経由し甲府を直指してください。
- 長野（名古屋）方面から甲府（中央自動車道経由）
- ◇中央自動車道：双葉スマートIC（ETCのみ）、甲府南IC、甲府昭和ICで降り表示に従ってください。

お問合せ

●甲府市観光課 / 〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号
 電話：055-237-5702
 URL：<http://www.city.kofu.yamanashi.jp/welcome>
 ©甲府市観光協会
 URL：<http://e-kofu.com>



甲府市観光課

スマホ用



甲府市観光協会

このパンフレットは再生紙を使用しています。

2013.4.1 100